

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン
取組の概要と推進委員会からのコメント

		整理番号	1
申請担当大学 (連携大学)	東北大学(計4大学) (山形大学、福島県立医科大学、新潟大学)		
プログラム名	東北次世代がんプロ養成プラン		
事業推進責任者	石岡 千加史(東北大学加齢医学研究所教授)		
取組の概要			
<p>本プランの目的は、わが国のがん医療の課題解決のため、最新のがん医療に必要な学識・技能や国際レベルの臨床研究を推進する能力を育み、大学、行政、職能団体、がん拠点病院や診療所、患者会や学会が連携しがんゲノム医療・個別化医療、希少がん・難治がん、小児から高齢者のライフステージ毎の多様ながんの医療ニーズに応えるがん専門医療人を養成することである。その実現のため、連携4大学が大学院に新たに55教育コースを設置し、東北メディカルメガバンク、小児がん拠点病院、個別化医療センター、重粒子線がん治療センター、医療・産業TRセンター、臨床研究推進センター、東北家族性腫瘍研究会など、ゲノム医療、希少がんや小児がん対策に重要かつこの地域がもつ国内外で有数の医療・医学インフラを活用した広域かつ高度先進的教育プログラムにより、先進的がん専門医療人を養成して我が国のがん対策の目標達成や医療イノベーションに寄与する。</p>			
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等</p>			
<p>○東北大学で新たに指定された学際研究重点拠点群や、東北がん評議会、東北メディカルメガバンク等、既存の体制や仕組みを基盤にして地域資源を上手く活用しており、事業の実現可能性が高い。</p> <p>○各職種のプログラム内容も、多くのコースで個別化医療やライフステージへの対応など一貫して取り入れており、本プランの狙いを明確にしている。</p> <p>○医療イノベーションに直結する人材育成は、わが国のがん医療の発展につながるものとして評価できる。</p> <p>○甲状腺検診コホート、日本海側初の小児がん拠点病院指定など重要な課題と連動した人材養成プランであり評価できる。</p> <p>○教育プログラムの対象者が、現状の各職種を網羅しており、かつ各大学でバランスよく配置されている。</p> <p>●遺伝性腫瘍、AYAがんなど複数臓器、長期間のフォローアップが必要な諸課題に対して、診療科・職種横断的な人材養成プランとなるよう今後検討する必要がある。</p> <p>●臨床心理士・ソーシャルワーカーなど、今後重要性を増す職種の教育についても考慮することが期待される。</p> <p>●ライフステージの多様性に配慮するためには、それぞれの世代の多様性に基づく脆弱性を評価し、それに基づいた医療介入等を提案する方法がまだ十分には確立していないことを踏まえ、従来の教育コンテンツの組み直しだけでなく新規開発なども考慮することが望ましい。</p>			